

**取組と目標に対する自己評価シート**  
(自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組)

年度	令和4年度
----	-------

**実績評価**

実施内容
<ul style="list-style-type: none"><li>○通所型サービスC事業の継続</li><li>○いきいき100歳体操等地域活動の周知啓発</li><li>○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みの拡充</li><li>○自立支援型地域ケア会議の実施</li></ul>
自己評価結果
<ul style="list-style-type: none"><li>・短期集中予防サービスとして、地域のリハビリテーション職と歯科衛生士による現地指導を組み込んだ運動機能向上教室と認知機能向上教室を継続。(月8回×6か月/クール、リハ職及び歯科衛生士による現地指導は月1回実施)</li><li>・令和3年度に引き続き、愛知県介護予防アドバイザー派遣事業を活用し、コアメンバー(地域包括支援センター職員及び行政の介護予防事業担当者)において、自立支援型地域ケア会議の立ち上げに向けた意見交換会を行い、前年度の反省点を踏まえ、町内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員と模擬会議を実施した。</li></ul>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍において、地域内における意見交換の機会が激減している。</li><li>・介護予防・日常生活支援総合事業においては、漫然とサービス提供が行われている傾向にあり、対象者の目標設定やサービス提供のあり方について、再確認する必要があることから、通所型サービス事業所の求めに応じ、出前講座を行い、意見交換会を実施した。</li><li>・特に、通所型サービスC事業においては、フレイル予防として、短期集中にてサービス提供を受けたほうがよい対象者への働きかけを強化する必要がある。一方、サービス終了後の受け皿として、加齢に伴う体力低下が感じられても継続して参加できる地域での健康づくり教室やサロンを充実させる必要がある。生活支援体制整備事業において、見守り支え合いや健康づくりの必要性を再確認する機会をつくった。</li><li>・新型コロナウイルス感染症の影響があることも想定されるが、閉じこもりがちになる等活動に参加しない高齢者等を訪問し、健康状態を把握する必要がある為、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みを活用し、アンケート調査と訪問を行ったが、課題の分析や必要な支援策の検討には至っていない。</li></ul>